

報 告

Boston Qualitative Scoring System を用いた
小学生の Rey-Osterrieth Complex Figure Test
再生作品の評価の実際と事例での適用

服 部 淳 子

〔論文要旨〕

Rey-Osterrieth Complex Figure Test (以下, ROCF とする) 再生条件を Boston Qualitative Scoring System (以下, BQSS とする) を用いて, 小学生194名を対象に評価した。その結果をもとに, BQSS 評価項目で平均得点より著しく低い再生作品に対して分析を加えた。再生条件では, 模写条件に比べ特異的な特徴が目立つため, 両条件での分析が望ましいと思われた。また, 事例への適用においては, 複雑図形を形態的要素, クラスター要素, 細部要素に分割し, 階層的に提示することで正確な模写ができるようになり, 視覚情報処理能力やプランニング能力の向上につながる事が示唆された。

Key words : BQSS 得点化システム, Rey-Osterrieth 複雑図形テスト, 再生条件, 小学生, 視覚認知能力

I. はじめに

Rey-Osterrieth Complex Figure Test(以下, ROCF とする) は, 成人の脳損傷患者の視覚構成能力や視空間記憶の評価のために考案されたテストで¹⁾, 複雑図形(図1)の模写と再生からなり, その有効性は小児においても注意欠陥/多動性障害など多岐に認められている。その評価法は多様であるが, 筆者は単純な量的評価ではなく描画方略や構成アプローチを加味し, 視覚認知能力や視空間構成を評価することのできる Boston Qualitative Scoring System (以下, BQSS とする) を用い²⁾, 小学生の視覚認知能力の発達を評価し, 報告してきた^{3,4)}。

前報では, ROCF の模写条件を BQSS で評価し, 著しく評価の低い作品を分析し, 報告した⁵⁾。そこで今回は, ROCF 再生条件における評価の実際について分析を加えるとともに, アスペルガー症候群1事例

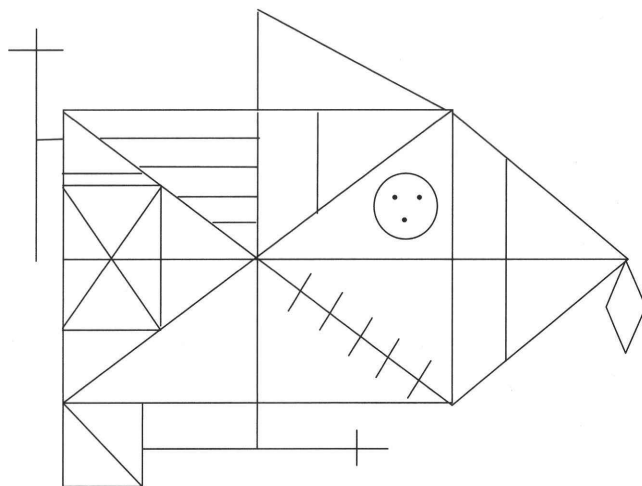


図1 Rey-Osterrieth Complex Figure(Osterrieth, 1944)

への ROCF の適用の実際と視覚認知能力に対する援助について報告する。

The Practice of Estimating of the Rey-Osterrieth Complex Figure Test Product in the Memory Task by the Boston Qualitative Scoring System and the Application of Specific Case

[2315]

受付 11. 3.18

Junko HATTORI

採用 11.10.14

愛知県立大学看護学部 (小児看護学/研究職)

別刷請求先: 服部淳子 愛知県立大学看護学部看護学科 〒463-8502 愛知県名古屋市守山区上志段味東谷

Tel : 052-736-1401 Fax : 052-736-1415

II. 方 法

1. 調査対象

A県内の5学童保育クラブに通所している小学生194名。

2. 調査期間

1999年4月～2006年8月。

3. 調査方法

ROCFはBQSS Professional Manual (著者訳;以下, BQSS マニュアルとする) に沿って行い⁴⁾, 描画過程はVTRに録画し分析した。

4. 倫理的配慮

研究の主旨や匿名性の保持等を書面にて説明し, 保護者の同意を得たうえで, 対象児童にも研究の主旨を口頭で説明し, 同意を得たうえで実施した。

5. 評価方法

評価は, BQSS マニュアルに沿って行った。図形を構造上の重要度により3群(形態的要素A～F, クラスター要素1～9, 細部要素(a)～(f))に分け(図2), 評価項目に沿って得点化する。詳しくは, 前報に示す通りである⁵⁾。

6. 分 析

SPSS.17を使用し, 各評価項目の学年別記述統計量を算出し, 各評価項目で平均より著しく低い(M-1SD以下または最小値)作品を対象とした。

III. 結果および考察

1. 対象の背景

対象は, 1年生36名, 2年生40名, 3年生32名, 4年生30名, 5年生28名, 6年生28名の計194名で, 男児111名(57.2%), 女児83名(42.8%)であった。

2. BQSS 評価と評価の実際

非対称を除く16項目の学年別BQSS評価を表1に, 学年別非対称評価を表2に示す。

1) 形態的要素・クラスター要素・細部要素に関する評価

各要素の有無評価では, 形態的要素, クラスター要素, 細部要素ともに学年が上がるにつれ高くなってお

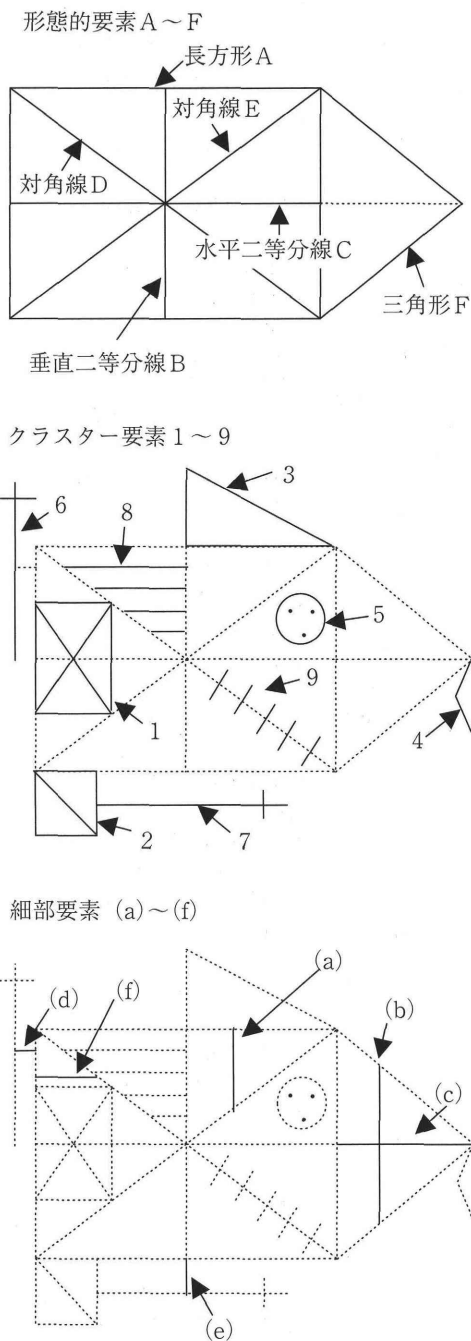


図2 形態的要素, クラスター要素, 細部要素

り, 要素別では, 形態的要素, クラスター要素, 細部要素の順に得点は低くなっていた。有無基準は, それらしき形態があればよいというレベルのため, 低い得点は複雑な視覚情報の再生が顕著に困難であることを示す²⁾。また, 要素毎の評価は, 局所再生(細部要素)か, 全体的再生(形態的要素やクラスター要素)といった情報再生の困難性を見ることができる²⁾。

各要素の正確さ評価では, 形態的要素, クラスター要素ともに, 学年が上がるにつれ高くなっていた。要素別では, 有無評価と同様に形態的要素が高く, 細部要素が低くなっていた。正確さ評価は, 視覚再生の一

表 1 評価項目の学年別平均得点

学年	項目	形態的有無	形態的正確さ	クラスター有無
1		2.25±1.32 **vs.4.5.6	1.11±1.35 **vs.4.5.6	1.81±.98 **vs.4.5.6 *vs.3
2		2.28±1.26 **vs.4.5.6	1.03±1.10 **vs.4.5.6	1.88±.69 **vs.4.5.6 *vs.3
3		3.09±1.23 *vs.6	1.91±1.23 **vs.6 *vs.4	2.50±.88
4		3.60±.93	2.70±.65 **vs.6	3.10±.71 *vs.5
5		3.43±.92	2.14±1.01 **vs.6	2.57±.50
6		3.86±.36	3.57±.74	3.14±1.01

学年	項目	クラスター正確さ	クラスター配置	細部有無
1		1.08±.94 **vs.4.5.6	1.64±1.15 **vs.2.3.4.5.6	1.11±.79 **vs.4.6
2		1.70±1.27 **vs.6	1.80±1.24 **vs.4.5.6 *vs.3	1.23±.77 **vs.4.6
3		1.66±1.21 **vs.6	2.66±1.13 **vs.6	1.31±.78 **vs.4.6
4		2.20±.89	3.00±.91	2.40±.81 **vs.5
5		2.43±1.07	3.00±.77 *vs.6	1.14±1.15 **vs.6
6		3.00±1.09	3.57±.50	2.14±.85

学年	項目	細部配置	断片化	プランニング
1		1.69±1.60 **vs.4.6	2.73±.87 **vs.4	1.10±1.32 **vs.3.4.5.6
2		1.88±1.56 **vs.4.6	2.59±.96	1.38±1.32 **vs.6 *vs.3.4
3		2.25±1.61	2.60±.72	2.47±1.25
4		3.10±.71 **vs.5	2.10±.71 **vs.6	2.30±1.02
5		1.86±1.76 *vs.6	3.00±.00	2.43±1.43
6		3.14±1.01	2.67±.96	2.83±1.09

学年	項目	きれいさ	垂直拡大	水平拡大
1		1.50±.68 **vs.3.4.5.6	3.90±.43	3.60±.86
2		1.74±.64 **vs.5.6 *vs.4	3.95±.23	3.55±.95
3		2.17±.59 *vs.6	3.90±.30	3.70±.70
4		2.30±.65	3.60±1.22	3.70±.47 *vs.5
5		2.43±.74	3.71±.71	3.00±1.10
6		3.00±1.09	3.86±.36	3.57±.74

学年	項目	縮 小	回 転	固 執
1		3.23±1.10 *vs.5	3.66±.70	3.29±1.13
2		3.50±.98 *vs.5	3.95±.23	3.10±1.24
3		3.17±1.12 **vs.5 *vs.6	4.00±.00	3.16±1.34
4		3.50±.94	4.00±.00	3.20±1.19
5		4.00±.00	3.86±.36	2.86±1.01
6		3.86±.36	4.00±.00	3.29±1.05

学年	項目	でたらめ
1		3.51±.81
2		3.20±1.07 *vs.4.6
3		3.47±.57 *vs.6
4		3.80±.41
5		3.29±1.05
6		3.86±.36

** : p < .01, * : p < .05
**vs.3は、3年生と有意差があることを示す。なお重複を避けるため、低い学年から高い学年への有意差（1 vs 3 と 3 vs 1 のうち 1 vs 3）のみ記述した。

般的な評価を示し、要素間での違いは、模写条件よりも再生条件において左右半球の障害を明確に示すといわれている²⁾。

表2 学年別非対称評価

学 年	な し	右	左	計
1	31(86.1)	0(0.0)	5(13.9)	36
2	37(92.5)	1(2.5)	2(5.0)	40
3	31(96.9)	0(0.0)	1(3.1)	32
4	30(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	30
5	28(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	28
6	28(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	28
	185(95.4)	1(0.5)	8(4.1)	194

(注：数字はn, ()は%)

配置評価でも同様に学年が上がるにつれて高くなっていた。配置評価の低さは、潜在的な空間機能を含む視覚記憶障害を示している可能性がある²⁾。

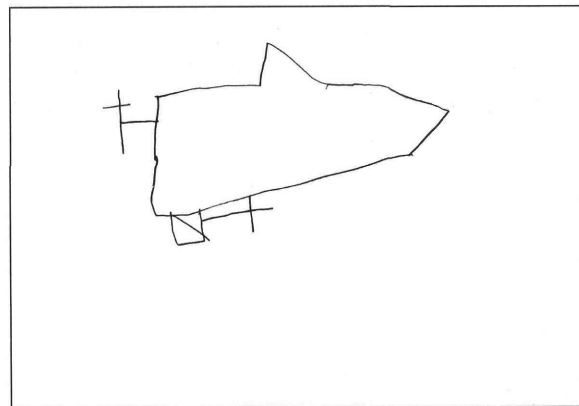
有無評価が低いと正確さ評価、配置評価も低くなるため、ここでは、ある程度再生されているが、要素間での再生量に偏りがあるなど、特徴的な作品を図3に示す。

Case 1 は、形態的要素、クラスター要素はほとんど描かれているが、不正確でかなり歪んでいる。大きな要素が描かれ、細部要素が描かれておらず、局所再生の困難性が認められる。プランニングなしに描かれているため、閉合の図形としてつじつまを合わせるた



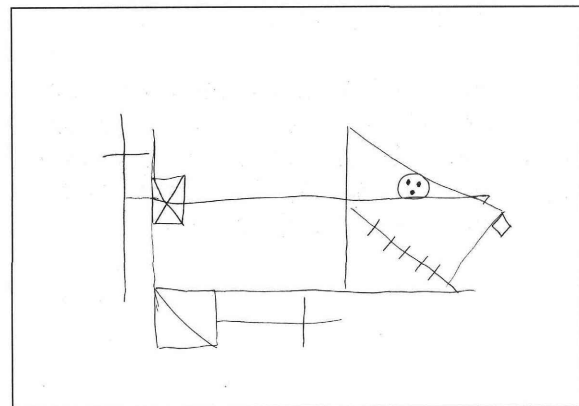
Case 1：1年生（7y3m），女兒，形態的有無4点・正確さ0点，クラスター要素有無3点・正確さ0点，細部有無1点・配置2点

形態的要素・クラスター要素はほぼ描かれているが、正確ではなく、細部要素はあまり描かれていない。プランニング0点。きれいさ1点で、描画スキルが低いいため、上部三角形のやり直しが何度も見られる。固執1点と図形左内部に複数の横線が見られる。



Case 2：2年生（8y2m），男児，形態的有無1点・正確さ0点，クラスター有無2点・正確さ0点・配置2点，細部有無1点・配置2点

図形の外観のみ描かれ、内部構造が全く描かれていない作品である。プランニングは4点と高い。外側の附属物もクラスター4以外は比較的正確に配置され、描かれている。



Case 3：5年生（10y8m），女兒，形態的有無2点・正確さ1点，クラスター有無3点・正確さ3点・配置3点，細部有無0点・配置0点

形態的要素有無2点，クラスター要素有無3点と比較的多く、正確に描かれているのに対し、細部要素がほとんど描かれていない。断片化3点であるが、プランニング0点と低い。水平拡大1点と低い。

図3 形態的要素・クラスター要素・細部要素の評価の低い作品例

めに、形の歪みが大きくなったと思われる。

Case 2 は、形態的要素、クラスター要素、細部要素のうち、図形の外形のみ描かれ、内部が全く描かれない作品である。プランニングして描いたため、図形の外形は正確であるが、内部が全く描かれず、アンバランスな印象を受ける。局所再生の困難性が認められる。

Case 3 は、形態的要素は上部が失われているが、クラスター要素は比較的描かれ、正確であるのに対し、細部要素がほとんど描かれていない。プランニングなしに描いたため、上部の要素が失われたと考えられる。大きな要素に比べ、小さな要素が描かれていないことから、局所の空間機能を含む視覚記憶の困難性が見られる。

2) 断片化

断片化評価は模写条件より全体的に高く、2点～3点であり、学年による違いは見られなかった。

断片化は情報統合のアプローチレベルを評価するため、低い断片化得点は再生条件においては右半球障害で見られることが多いと言われている²⁾。断片化評価の低い作品を図4に示す。

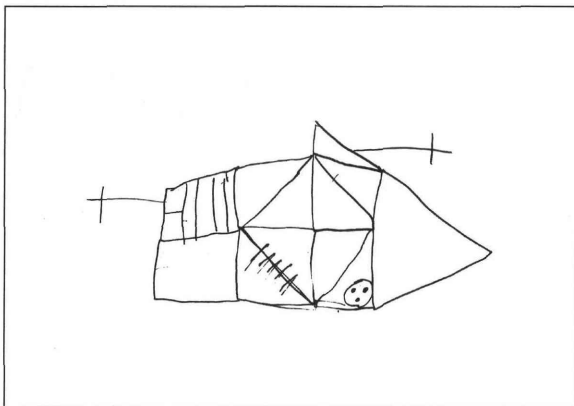


図4 断片化評価の低い作品例

Case 4 : 2年生 (8y7m), 女児, 断片化1点

形態的要素有無、クラスター要素有無は2点で、正確さは各1点。細部要素有無は1点で、配置0点と小さな要素はほとんど描かれていない。断片的に隣の要素をつなぎ合わせて描いているため、交点のずれが見られる。

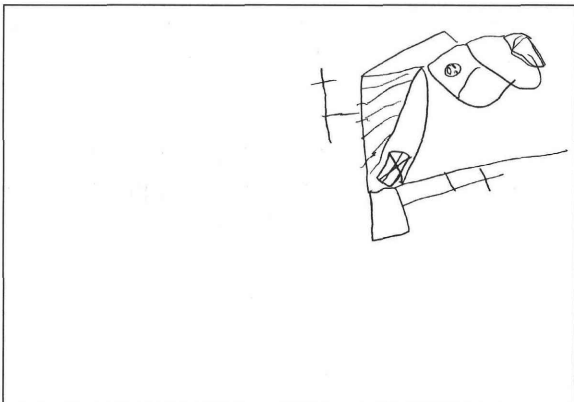


図5 プランニング評価の低い作品例

Case 5 : 1年生 (7y8m), 男児, プランニング0点

形態的有無2点、正確さ0点と大きな要素が描かれず、正確でない。しかし、クラスター要素3点と高い。プランニング得点が低いいため、大きな要素は分裂して描かれ、比較的小さな要素のみつなぎ合わせて描いているため、原形からかなり逸脱しているが、原形どおり描かれたクラスターや細部の要素もある。

分裂し, 小さな要素をつなぎ合わせて描いているため, 原形からかなり逸脱しているが, 特徴的なクラスター要素1や4, 5は識別可能である。模写時と同様, 全体の形態が保たれていないが, 再生時の歪みの方が著しく, 視覚情報処理における困難性が示唆される。

4) きれいさ評価

きれいさ評価では模写条件と差が見られず, 学年が上がるにつれ高くなっていた。

きれいさ評価の低さは, 手の振戦や誇張描写や自己修正の傾向などとの関連が示唆されている²⁾。小学生では模写条件と同様に描画スキルの発達に関連しており, 低学年で得点が低く, 女児が男児に比べやや高く, 若干性差が見られる (男児 $1.93 \pm .78$, 女児 $2.46 \pm .91$, $p < .01$)。きれいさ評価の低い作品を図6に示す。

Case 6 は, 形態的要素, クラスター要素などの大きな要素はよく描かれているが, 不正確で, 小さな要素が失われている。再生量が多いのに対し, 角の丸みや線の歪み, 交点のずれなど, きれいさ評価は低く, アンバランスな印象を受ける。描画スキルの発達による影響が示唆される。

5) サイズの歪み: 垂直・水平拡大, 縮小

垂直拡大は各学年とも4点に近く, 水平拡大も3.5点前後と高く, 縮小は低学年で3.5点以下, 高学年ではやや高くなっていた。

一般的に, 再生条件におけるサイズの歪みは模写条件のサイズの歪みに由来し, 図形の拡大は, 低いプランニング, 衝動統制困難等を示し, 右半球障害では拡大傾向, 側頭葉障害で水平拡大を示す傾向が見られる。また, 縮小は小書症の症状で, パーキンソン病のような神経節疾患と関連している²⁾。小学生では描画スキルの発達と関連も考えられる。サイズ評価の低い作品

を図7に示す。

Case 7 は, 形態的要素は正確であるが, クラスター要素や細部要素の小さな要素はあまり描かれず, 不正確である。模写時には見られなかったが, クラスター4がとても大きく, アンバランスな印象を受ける。

Case 8 は, 形態的要素, クラスター要素は描かれているが, 不正確で, 細部要素を再生できず, ためめな図形や線が描かれている。模写時は, 水平拡大・垂直拡大が見られたが, 再生時は垂直へより拡大した。細部要素を再生できないことも鑑み, 左半球機能が関与している可能性も示唆された。

6) 回転評価

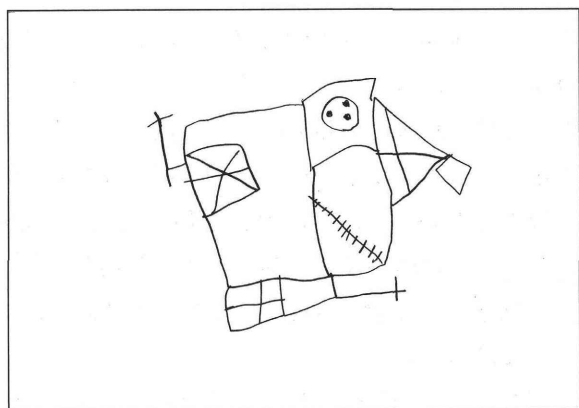
回転評価は1年生でも3.66点と高く, ほとんどの学年で4点と高かった。

回転における低い得点は, 回転が大きいことを示す。著しい回転(3点以下)は, 健康な成人では見られず, 機能障害を示している²⁾。再生条件では, 5年生1名を除いて, 1, 2年生に見られたため, 低学年の回転は発達の要因も考えられる。回転評価の低い作品例を図8に示す。

Case 9 は, 形態的要素は正確によく描かれ, クラスター要素や細部要素は, あまり描かれていない。プランニングが高く, 比較的大きな要素は正確に再生され, 小さな要素が失われている。模写時と同様, A4横用紙上の図形モデルを見てA4横用紙上に90度回転した図形を描いた。視覚情報のインプットかアウトプットの過程での回転が推察され, 遂行機能の問題が心配される。

7) 固執

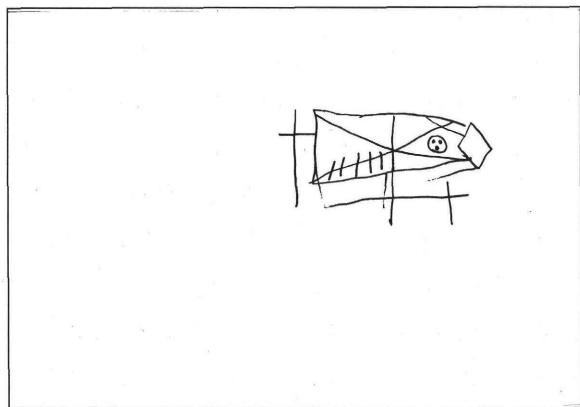
固執評価は学年による違いは見られず, 2点台後半から3点台前半を示した。



Case 6 : 1年生 (7y10m), 男児, きれいさ1点

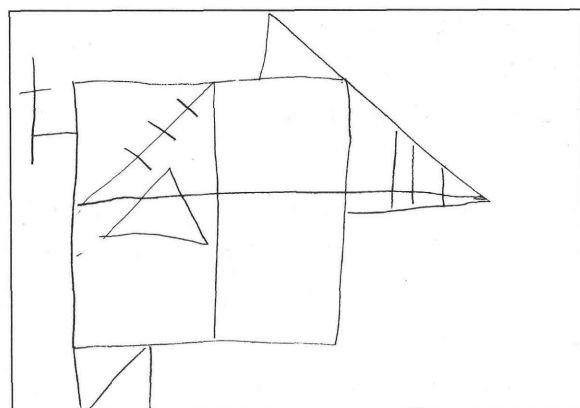
形態的要素有無3点, クラスター要素有無3点と比較的描かれているが, 正確さは1点と低く, 不正確である。断片化1点, プランニング1点と低く, 基本長方形Aと右三角形Fの角が合わず, 図形が変形している。角の丸みや線の歪み, 交点のずれが見られる。固執1点と低く, クラスター9が過剰に描かれている。

図6 きれいさ評価の低い作品例



Case 7 : 3 年生 (9y10m), 男児, 縮小 1 点

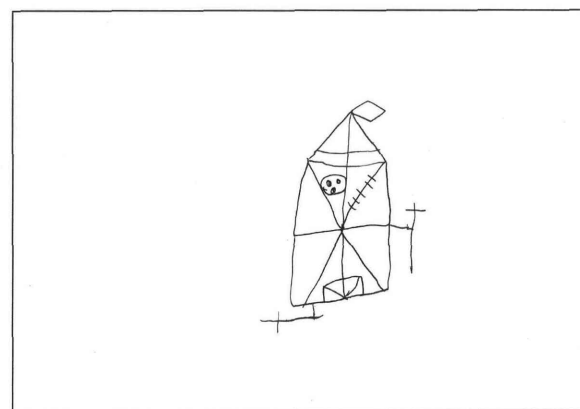
形態的要素有無 2 点, 正確さ 3 点と大きな要素が正確に描かれているが, クラスター有無 2 点, 正確さ 1 点, 細部有無 1 点, 配置 0 点と不正確であり描かれていない。断片化 4 点。模写時には見られなかったが, 再生時には図形が小さく描かれている。



Case 8 : 5 年生 (10y 5 m), 男児, 垂直拡大 2 点

形態的要素, クラスター要素有無は学年の平均より 2 点と低く, 正確でない。細部要素がほとんど描かれず, それを埋めるために, でたらめな図形や線が描かれている。水平拡大は 3 点とやや拡大し, 垂直拡大が目立つ。模写時は水平, 垂直拡大ともに 3 点であった。

図 7 サイズ評価の低い作品例



Case 9 : 1 年生 (7y11m), 男児, 回転 1 点

形態的有無 4 点, 正確さ 3 点と高く, クラスター要素 2 点, 細部要素 1 点と大きな要素に比べ, 小さな要素は失われている。図形モデルを見ながら, 横向きに置かれた用紙に 90 度回転させ, 縦向きに図形を描いた。模写も同様であった。プランニング 3 点と高く, プランニングされて描かれた。

図 8 回転評価の低い作品例

固執は, 刺激提示時の活動の連続性を評価し, 遂行機能障害の 1 側面で, 前頭葉システムの機能障害とみなされ²⁾, 模写条件で見られると障害が大きいことを示し, 再生条件では視覚記憶の曖昧さとして見られることが多い。固執評価の低い作品を図 9 に示す。

Case10は, 形態的要素は描かれているが歪みが大きく, 内部の要素が比較的正確に配置されている。クラスター要素 8 を示すような縦線の繰り返し, 形態的要素 B の繰り返しがみられ, 遂行機能の困難性が心配される。

8) でたらめ評価

でたらめ評価は, 1 年生で 3.51 点と高く, 学年的な違いは見られなかった。

でたらめは, 正確な情報であると確信して間違った反応を示すもので, 模写条件では精神疾患などの異常指標とみなされるが⁴⁾, 再生条件では視覚記憶の曖昧さにもよるが, 情報の多くが描かれている場合のでたらめは, 健忘症の指標を示す²⁾。でたらめ評価の低い作品を図 10 に示す。

Case11は, どの要素もあまり描かれていないが, 小さな要素に比べ大きな要素が不正確である。プラン

ニングが低く、図形の輪郭を描き、続いて内部要素を描き、図形の輪郭に戻ったため、図形が歪み、内部の情報を処理できず、つじつま合わせにでたらめな線を描いたと推察される。図形全体を捉えられない描画方略の発達の未熟性が示唆される。

9) 非対称評価

非対称評価は、1年生5名(13.9%)、2年生3名(7.5%)、3年生1名(3.1%)で、4年生以上では見られなかった。

非対称評価は模写条件同様、成人では構成課題の片

側遂行(右側か左側)が脳の逆側半球の損傷との関連があるとされ²⁾、作品の左右側の要素の有無や正確さの比較により右(左)半球障害による左(右)側軽視や不注意が判定できる。これまでの研究により^{3,4)}、小学校高学年の非対称は異常指標と推察される。非対称の見られる作品を図11に示す。

Case12は、要素はあまり描かれていないが、大きな要素は形態が歪み、不正確である。断片化は高く、大きな要素をまとまりとして描いたが、歪みが著しい。模写時よりも著しく右側が歪んでおり、右側の情報処

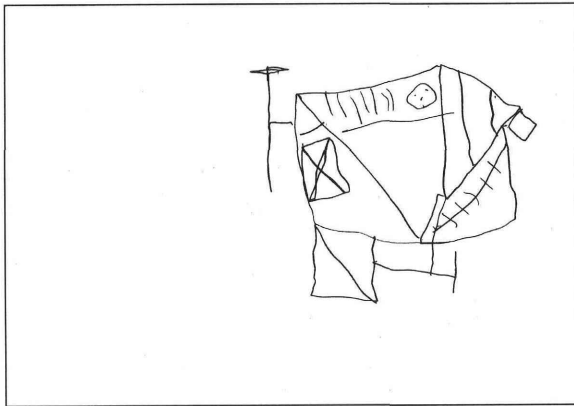


図9 固執評価の低い作品例

Case10: 1年生(7y11m), 男児, 固執1点

形態的要素有無2点, 正確さ0点と大きな要素が描かれているが不正確であるため、いびつな図形となっている。クラスター有無3点, 正確さ2点, 細部有無2点, 配置4点と高く, 比較的正確であるが, プランニング1点と低いために, 形の歪みが目立つ。図形左上の縦線が何本も描かれ, 細部(b)の重複が見られる。

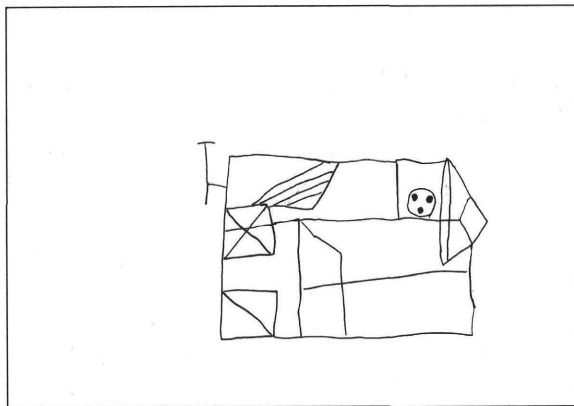


図10 でたらめ評価の低い作品例

Case11: 2年生(8y7m), 男児, でたらめ0点

有無評価では, 形態的要素, クラスター要素, 細部要素すべて2点と低く, 不正確であるが, 細部要素のみが配置4点と高い。プランニング0点と低く, 描いているうちに図形が歪み, 変形してるが, そのつじつまを合わせるためにでたらめの線や形が多く見られる。

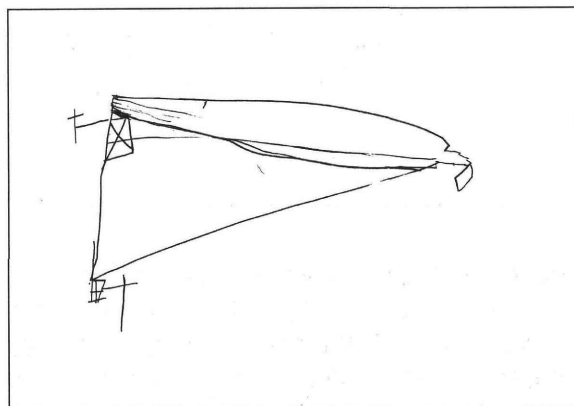


図11 非対称評価の低い作品例

Case12: 2年生(8y1m), 男児, 非対称(右)

形態的要素2点, クラスター要素2点, 細部要素1点と低い。大きな要素は, 形が歪み, 不正確であるが, 左内部, 下部の細部要素は正しい位置に配置されている。図の左側に比べ, 右側が歪んでいる。断片化4点と高い。模写時にも右非対称が見られたが, 歪みの頻度は模写時に比べ著しい。

理が心配される。

3. 事例への適用

研究対象の中に調査後、アスペルガー症候群の診断を受けた児がいた。保護者の調査継続の希望があったため、研究同意のもと、倫理的な配慮を行ったうえ、継続的な調査・援助を行った。

1) 事例

アスペルガー症候群，男児，診断時年齢 6 y 10 m，ROCF 実施年齢 1 回目 6 y 9 m，2 回目 6 y 10 m，ゲームに負けると癇癪を起こす，ルールに合わせて行動できない等の行動が見られた。

2) ROCF の評価

ROCF 両条件の作品は図12に示す通りである。模写を始め，何度も描画用紙を縦に向け，横に戻させて描かせる。輪郭を描き始めたが，附属の部分の要素を描いているうちにつじつまが合わなくなり，2分8秒の時点で行き詰まり，すべてを消してしまった。その後新たに描き始め，3分35秒で模写し終えた。模写時間 5分43秒（平均 384.20 ± 141.91 秒），再生時間 2分28秒（平均 176.00 ± 123.50 秒）で平均より短かった。模写条件では，輪郭から附属の要素も含め描いていたため，内部でつじつまが合わない部分に対しては，対角線をゆがませること等で対応していた。何度も用紙を

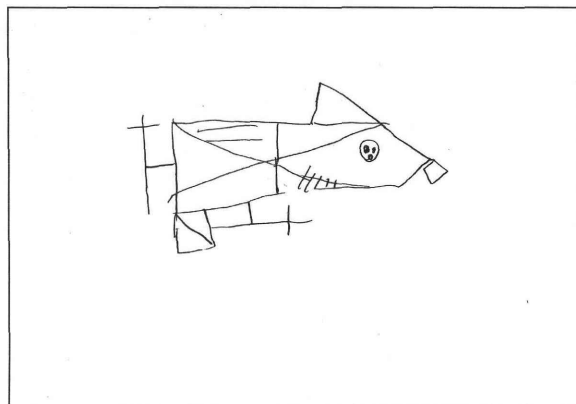
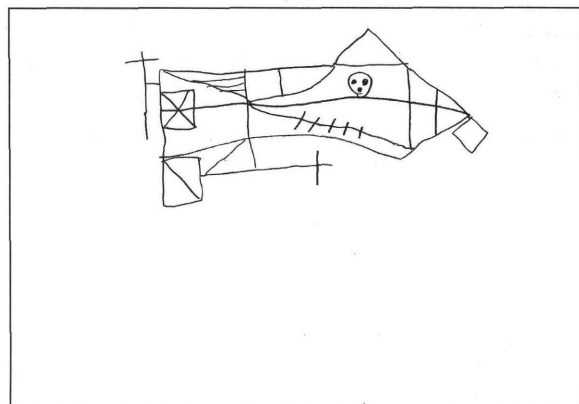


図12-1 1回目の模写作品と再生作品

模写条件では，形態の有無，クラスター有無4点，細部有無3点，形態的正確さ1点，クラスター正確さ1点で，断片化1点，プランニング1点。きれいさ2点，水平拡大3点，でたらめ3点，非対称なし。プランニングが低く，つじつまを合わせるために要素が正確でなく，有無評価が高い割には，正確さが低く，でたらめが見られる。線の歪みのためきれいさが低い。再生条件では，形態の有無，クラスター有無3点，形態的正確さ1点，クラスター正確さ1点，細部有無1点，細部配置0点。小さな要素がほとんど失われている。模写時の不正確さのまま再生されている。

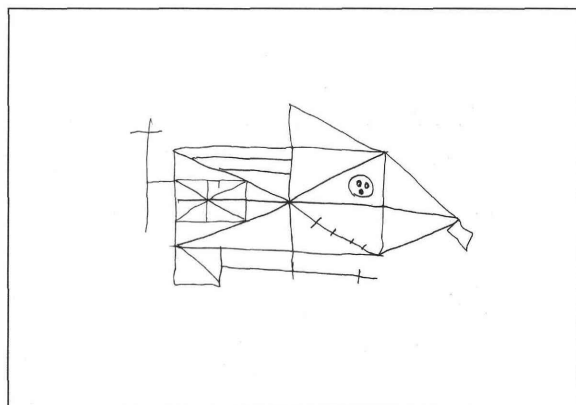
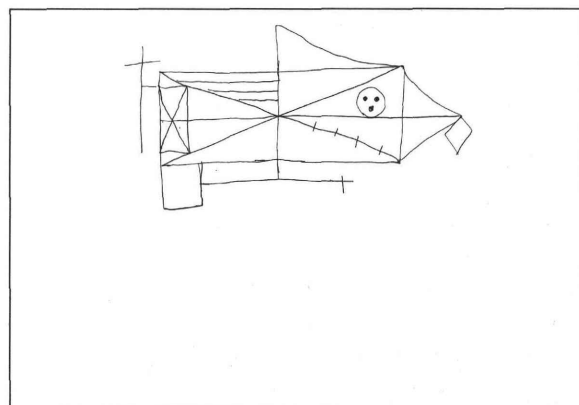


図12-2 2回目の模写作品と再生作品

模写条件では，形態の有無，クラスター有無4点，細部有無3点，形態的正確さ4点，クラスター正確さ3点で，断片化3点，プランニング3点。きれいさ3点，水平拡大3点，でたらめ4点，非対称なし。1回目に比べ，小さな要素までほとんど描かれ，図形の骨子が理解できたためか，でたらめの線や歪みがみられない。再生条件では，形態の有無4点，クラスター有無3点，形態的正確さ3点，クラスター正確さ2点，細部有無3点，細部配置2点，きれいさ3点，でたらめ3点。模写されたほとんどの要素が描かれたが，図形を理解して描いたためか，クラスター要素1にでたらめの線が付加されてしまった。

回転させ描く行為やすべてを消して描き直す行為は、他児ではほとんど見られなかった。再生では、模写の要素のほとんどを再生できていた。

情報処理やプランニングにおける低さが見られたので、1回目実施時から1か月間（計4回）、Waberら⁶⁾が採用した階層的提示方法を参考に、図2のように形態的要素A～Fを実線、それ以外を点線で提示して、図形の骨子を模写させた後、クラスター要素を提示し、模写させ、最後に細部要素を提示し、模写させた。その後、ROCFの2回目を実施した。2回目のROCFでは、図形の構造に合わせてプランニングし描くことができるようになり、形態的正確さ、クラスター正確さ、細部配置が向上した。1回目はつじつまを合わせるために線の歪みが多々見られ、きれいさ評価が低かったが、視覚情報を段階的に提示することで、図形の構造を理解できるようになり、歪みが少なくなり、正確さやきれいさ評価が高くなった。再生に関しては、視覚情報の効果的な処理やプランニングのせいか、視覚情報の消失が少なくなった。以上のように、視覚情報処理やプランニングにおいて手がかりを与えることで、視覚情報処理やプランニングなど視覚認知能力の向上につながることが示唆された。

IV. ま と め

小学生のROCFの再生作品をBQSSで評価し、各評価項目で低い得点の作品を分析した。再生作品は模写時に比べ、特異的な特徴が目立つ作品が多く、再生条件のみに特徴の見られた作品もあったため、BQSSで評価後、得点の低い両条件の作品を分析することによって、情報処理や描画スキルなどにどのような特徴があるのかをより詳細に把握できるのではないかと考えられた。また、実際の事例への適用では、視覚情報

処理やプランニングの低さが認められたアスペルガー症候群の事例に対し、階層的に図形を表示することによって、情報処理能力、プランニングなどを高めることができた。今回は、1事例にのみの適用であったが、今後は視覚認知能力に何らかの問題を認める子どもへの援助に活用していきたいと考える。

文 献

- 1) Rey A. L'examen Psychologique dans les cas d'encephalopathie traumatique. Archives de Psychologie 1941 ; 28 : 286-340.
- 2) Stern RA, Javorsky DJ, Singer EA, et al. The Boston Qualitative Scoring System for the Rey-Osterrieth Complex Figure Professional Manual U.S.A. Psychological Assessment Resources, 1999.
- 3) 服部淳子. Boston Qualitative Scoring System を用いたRey-Osterrieth Complex Figure Testにおける小学生の視覚構成能力の質的発達：模写条件. 小児保健研究 2006 ; 65 (6) : 799-805.
- 4) 服部淳子. Boston Qualitative Scoring System を用いたRey-Osterrieth Complex Figure Testにおける小学生の視覚構成能力の再生条件に関する質的発達. 小児保健研究 2007 ; 66 (3) : 485-490.
- 5) 服部淳子. Boston Qualitative Scoring System を用いた小学生のRey-Osterrieth Complex Figure Test模写作品の評価の実際：一般小学生での分析. 小児保健研究 2010 ; 69 (5) : 690-702.
- 6) Waber DP, Holmes JM. Performance of Learning-Disabled and Non-Learning-Disabled Children on the Rey-Osterrieth Complex Figure : Validation of the Developmental Scoring System. Developmental Neuropsychology, 1995 ; 11 (2) : 237-252.